

## 月刊 アカサス ニュース

第29号 1998(平成10年).11

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

「キャンパス2050」シンポジウムで  
金沢大学の未来像を提言

トップニュース Top News

シンポジウムの開催にあいさつする岡田学長  
= 10月9日、金沢市文化ホール(金沢市高岡町)で

本学では50年後のキャンパス構想を策定するに当たり、10月9日、金沢市文化ホールで、学内外の有識者を招いてシンポジウムを開催し、大学関係者や市民ら約140人が参加した。

シンポジウムでは、岡田晃学長のあいさつに続いて、東京大学文学部長の樺山紘一氏が講演を行い、「大学には生涯学習に対応した教育の展開や産官学の連携が必要であり、地域の担い手としての役割を見直すべきである。」と強調した。また続いて催されたパネルディスカッションでは、中心市街地が増えている空き地の活用に向けた大学の参加や大学のシンボルを創ることなどが提案された。

この日の提案などを参考に50年後のキャンパス構想が策定され、来年5月の創立50周年記念イベントで披露されることとなっている。



様々な立場で意見を述べるパネリストたち  
上段左から、宮下孝晴教授(教育学部)・進行役、樺山紘一氏(東京大学教授)、在塚礼子氏(埼玉大学教授)、下段左から佐々木政雄氏(都市プランナー)、福光松太郎氏(社)金沢経済同友会副代表幹事)、奥野正幸助教授(理学部)  
= 同上



パネリストに質問する参加者  
= 同上





## 巻頭言

## これからの産官学連携



共同研究センター長  
石田 眞一郎  
(工学部教授)

「産官学連携」という文字が毎日のように新聞紙上をにぎわしている。不況の打開策として最近急に浮上してきたようだが、その必要性が指摘されたのはそんなに新しいことではない。

昭和30年代前半の神武景気に始まった高度経済成長によって雇用が拡大され、我が国の人口は地方から大都会へと移動した。しかし、昭和48年のオイル・ショック以来景気は急激に減速してUターン現象が起こる。この時、受け皿となるべき地方は個性を喪失しており、豊かな生活環境の早急な構築が求められたのである。このためには、まず停滞気味の地域経済を活性化させることが急務とされ、地域産業界が大学や公設試験研究機関と一体となって「地域技術の向上」を目指すべきであるとして、国は産学連携の推進を図ったのである。しかし、大学人は大学の設立目的が研究と教育の二点であるとの意識を強くし、また産学癒着の非難を避けるため産学共に消極的であった。

昭和62年から文部省は国立大学に「共同研究センター」を設置して産官学連携の舞台とした。共同研究に対する各種の規制緩和も進んだ。このような対策の強化により共同研究や受託研究の件数は年々増加を続けているが、バブル崩壊後の極度の不況にあえぐ我が国にとって産官学連携の目指す方向は「技術指導」から「新産業創出」へとより具体的になってきた。今春「技術移転促進法」が国会で成立し、大学の研究成果をビジネスに結び付ける「技術移転機関( Technology Licensing Organization = TLO )」設置の機運が各地で高まっている。「共同研究センター」はこの構想に協力して地域産業の発展に寄与しなければならない。

日本経済発展のため大学は「象牙の塔」に閉じこもらず、自身が持つ技術シーズを開放し、産業界はそれを有効に活用することが、これからの産官学連携に求められるところである。

## 恒例の名誉教授懇談会が開かれる



名誉教授の方々に前にしてあいさつする岡田晃学長  
= 10月7日、ホテル日航金沢(金沢市本町)で

10月7日、市内のホテルを会場に、恒例の「学長と名誉教授との懇談会」が催された。今年の同懇談会は、名誉教授61名と本学関係者23名の合わせて84名が集い、酒井榮一名誉教授(元理学部)と大場義樹新名誉教授(元薬学部)のあいさつに続いて、木戸睦彦名誉教授(元教養部)の乾杯で幕をあげ、旧交を深めた。



懐かしい話に花が咲いた懇談会場  
= 同左



## 日本海側で初の 短期留学プログラムを開設

金沢大学短期留学プログラム(KUSEP)開設記念式典が、10月13日、大学会館で開催された。同プログラムは、外国人留学生を1年程度受け入れ、主として英語による教育を行うものであり、国立大学では本学が12番目、日本海側では初めて開設された。

式典には、第1期留学生19名のほか、地域関係団体の代表者や関係教職員合わせて約60名が出席し、岡田晃学長



留学生を代表してあいさつするディーツェ・ウルリッヒさん(ドイツ)  
= 10月13日、大学会館ホールで

のあいさつ、文部省留学生課長の祝辞(代読)に続いて、プログラムの概要説明や各留学生の紹介が行われた。

式典終了後には祝賀会が行われ、参加者たちは思い思いに交流を深めた。



式典に参加した第1期留学生たち  
= 同左

## '98 地域交流フォーラムを開催

地域交流事業推進委員会、大学教育開放センター、共同研究センターは、『大学を開く』をテーマに地域交流フォーラムを開いた。まず10月15日には、大学教育開放センターを会場として、「地域との交流を深める」をサブテーマに基調講演やパネリスト6名による公開シンポジウムが行われた。また翌16日には、共同研究センターを会場として、「産学官の連携を深める」をサブテーマとして、共同研究の紹介などが行われた。



大学が地域や行政とどう連携すべきかが話題となったシンポジウム  
= 10月15日、大学教育開放センター講義室で

マルチメディアに関する共同研究の成果を話す飯島泰裕助教授(経済学部)  
= 10月16日、共同研究センターセミナー室で



## 「金沢大学事務OB会」で 懐かしい顔が集う

10月23日、「金沢大学事務OB会」の第4回会合が、市内のホテルで開催され、OB会員と現職会員のうち約100名が集まった。総会では、中村厚生事務局長から大学の近況が報告され、続いて吉田真言庶務部長から、来年の会合については、5月29日に予定されている創立50周年記念式典で再会できるため、“休会”とすることなどが報告された。

親睦会では、約2時間にわたって懐かしい面々との旧交を深め、出席者は各々再会を期して散会した。



懐かしい顔も見られた親睦会の1コマ  
= 10月23日、金沢都ホテル(金沢市此花町)で

## 会計事務合理化推進室が設置される

本学における会計事務を全学的に系統化し、情報化・合理化を積極的に推進することを目的として、10月16日、経理部内に「会計事務合理化推進室」が設置された。また、20日には関係者の手により同推進室の看板が掲げられた。



看板を掲げる中村厚生事務局長(左)と丸山彰経理部長  
= 10月20日、事務局経理部入口で

## 「第8回石川地域留学生交流推進会議」及び「石川県内留学生との懇談会」を開催

本学を事務局とする「第8回石川地域留学生交流推進会議」が10月27日に市内のホテルで開催され、文部省、石川県内の高等教育機関及び国際交流団体などの関係者38名が出席した。同会議では、留学生交流モデル事業地域の指定等について活発な協議が行われた。

また、同会議終了後、初の「石川県内留学生との懇談会」(同会議主催)が催され、留学生や国際交流関係者など、約260人が一堂に会した。同懇談会では、各国の留学生による歌や踊りも披露され、互いに親交を深めた。



懇談会で披露する“短期留学プログラム”学生による合唱  
= 同上



会議開催に当たりあいさつする岡田晃学長  
= 10月27日、石川厚生年金会館(金沢市石引)で





## 10月の全国・ブロック会議

本学が当番で開催した全国又は地方ブロックの会議

### 平成10年度国立大学 国際交流課長等連絡協議会

期 日：10月29日

場 所：ホリディ・イン金沢(金沢市堀川町)

出席者：全国の国際交流担当課長35名ほか

あいさつをする中村厚生事務局長  
"10月29日、  
ホリディ・イン金沢で



### 平成10年度(第13回)学術及び総合情報 処理センター長会議

期 日：10月30日

場 所：総合情報処理センター

出席者：全国の関係センター長27名ほか

共通課題が活発に議論された会議  
の模様  
"10月30日、総合情報処理センタ  
ープレゼンテーション室で



## 10月の研修スナップ

### 文書実務研修

期 日：10月6日

受講者：文書作成に興味  
・意欲のある者  
22名

場 所：事務局大会議室



本学非常勤講師の中村朱美氏を講師に迎えての文書作成についての講義  
= 10月6日、事務局大会議室で

### パソコン研修

期 日：10月14,15,19日

受講者：パソコンを利用  
する事務職員3  
コース計122名

場 所：総合情報処理セ  
ンター及び事務  
局大会議室



「エクセル基礎コース」の研修風景  
= 10月15日、事務局大会議室で

### 本学へのお客さま(10月)



ウィリアム・アンド・メアリー大学(米国)クレイグ・カニング国際部長(右から4人目)ほか  
= 10月12日、学長室で



ナンシー・メッツ地方大学ネットワーク会長(ナンシー理工科大学(フランス)元学長)のミッシェル・ルシアス氏(右から2人目)  
= 10月12日、工学部長室で





## 皇居駅伝 大きな支援で元気に完走

10月31日、皇居周回コースで第6回全国国立学校等教職員駅伝大会が開催され、本学から初参加した10名の選手は全員元気に完走した。成績は、駅伝男子が69チーム中52位(1周5キロの平均タイム22分27秒)、同女子は9チーム中6位(平均タイム25分12秒)であった。また、女子個人の部に出場した前田由美選手は19人中第10位に入る健闘を見せた。

[ 多くの方々の御支援に対し、心から感謝申し上げます。]

選手一同]



無事完走し、ほっと一息の選手たち  
= 10月31日、皇居桜田門横で

## 本学医学部学生 体育大会で総合優勝!

44大学の学生が参加した「第50回西日本医科学生総合体育大会」は、この夏、東海・北陸地区で21競技が行われ、集計の結果、このたび金沢大学の3年振り8回目の総合優勝が決定した。金沢大学は今回、種目別での優勝はないものの、バドミントン男子や弓道女子で準優勝するなど、幅広く得点を重ね、総合2位の宮崎医科大学に大差をつけての優勝となった。



総合優勝し、栄光の優勝旗やカップを手にする本学医学部学生  
= 11月4日、医学部基礎第1講義室で



## 国際交流協定締結大学 (その13)

### オーストラリア国立大学

[ 1998.8.24 協定締結 ]

オーストラリア国立大学は、本学が大学間交流協定を締結した初めての南半球に位置する大学である。同校とは、平成8年(1996年)にシドニーで開催された「日本留学フェア」に本学関係者が参加したことがきっかけで交流が始まった。

同校は、オーストラリア唯一の国立大学として(同国38大学のうち37大学が州立)1946年に創立し、現在、芸術、東洋学、経営・経済、工学・情報工学、法学、理学の6学部7研究科があり、教職員約700人、学生約1万人を擁している。キャンパスは首都キャンベラに位置するが、湖や原生林などの豊かな自然に囲まれており、カンガルーやオカメインコなどの野生生物も時折目にすることができる。



A.D.ホープ記念館(同大学パンフレットから)





## 高島 力教授(医)が “ 米国放射線学会名誉会員 ” に

このほど、医学部の高島力教授(放射線医学講座)が世界で最も権威ある放射線学会とされる米国放射線学会の名誉会員に選ばれた。

同学会は、世界の放射線科医の中から毎年3人に対して名誉会員の称号を授与している。臨床治療において、放射線科医の読影診断が重用視されるまでに日本の放射線医学を発展させた功績などが認められたものである。



名誉会員だけが着用を許される帽子とガウンを身に付けた高島教授

## 中村信一教授(医)が “ 小島三郎記念文化賞 ” を受賞

(財)黒住医学研究振興財団は、このほど「第34回小島三郎記念文化賞」の受賞者として、本学医学部の中村信一教授(微生物学講座)を選出した。

本賞は、病原微生物学、感染症学などの領域で功績のあった研究者に贈られるものである。今回は、同教授の「ボツリヌス菌および非ボツリヌス・クロストリジウム菌種のボツリヌス毒素型の疫学研究」が評価された。



現在、医学部長の要職をも務める中村教授

## 本学職員の著書紹介コーナー

### 明治期比較地方体育史研究

- 明治期における石川・岩手県の  
体操科導入過程 -

ひであき  
大久保 英哲  
(教育学部教授) 著

発行所:不昧堂出版  
(8,300円 税別)



人々が新しい文化や制度を受け入れる時、どのような対応をとるのであろうか。本書は、明治期、学校教育の中に「体操科」が導入された際の対応を、石川県と岩手県の場合を比較史的に分析したものである。地域的な差異を生み出すに至った歴史的背景についての著者の考察のまなざしの鋭さと深さは、地域文化論の立場からも興味深い。

本コーナーに著書の掲載を御希望の方は、庶務課研究協力・広報係(電話264-5019)まで御連絡ください。

## 編集後記

そろそろ行楽シーズンも終盤。目に映る季節はまだまだ“秋”でも、肌の感覚はすっかり“冬”となった。寒い。

ひょっこり覗いた今年の“金大祭”は、割と天気が良かったのにも関わらず、人の入りはいまひとつだった。思えば、この角間キャンパスに来てから街とのつながりを感じない。なんだか都会の喧騒(けんそう)を離れ、角間という山に通勤している気がする。学生たちが帰宅することを下山すると言っているのもなるほど……と思う。

しかし、そう遠くはない昔、私が学生だったころに比べれば、かなり信号が増え、店舗も増え、格段とにぎわってき

ている。当時は本当に“山”だった。5年余りで素晴らしい進歩とみるか、まだまだと感じるかは人それぞれだが、先は長い。それにこの周囲のどこまでも続いていそうな山がなくなり、キャンパスが出現した(する)なんて、考えてみればすごいことだ。

「50年後の金沢大学像」も、本当にどんなものになるだろう。楽しみだ。私自身は微々たるもので、一見、何も関与していないような気がする。けれど職員として存在するだけで、責任の一端は一人ひとりにかかっている。自覚しよう。

皆さんはどんな大学にしたいですか？ (黒田)





## 懐かしの面々——勢ぞろい！



金沢大学事務OB会(第4回)での集合写真  
= 10月23日, 金沢都ホテル(金沢市此花町)で(関連記事は4ページ)

(金沢写真院 撮影)

## THE DORAKU ⑤ 走 る

「皇居を見たい」の一心で国立大学教職員駅伝大会に出場を希望し、通い始めたばかりのスポーツジムでルームランナーに乗る。気持ちのいい汗が出て、充実感に満ち、生活に張りが出た。そして本番。ロードを走るのは久しぶり。途中、投げ出したくなる自分と葛藤しながらも何とか完走できた(ただし、皇居のお堀さえ見る余裕がなかったけれど)。ゴールした瞬間、頭の中が白くなり、東京の空気もおいしく感じた。自分と共に力走したチームメイト、そして街頭の方々の声援があったからこそ頑張れたのだと思う。うーん、風を感じて走るの気持ちいい!!

こだにぐちみちえ  
小谷口典江  
(医学部附属病院  
看護部)



女子のアンカーとしてゴールする小谷口さん



屋外でのトレーニングは爽快そのもの

平成10年11月20日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019  
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キュービーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。